



間口 5.6m 奥行 11m、18 坪の土地に 1 階の階高 4.9m、2 階 3 階が 3.6m それに屋上塔屋を含み 15.6m の塔状の小さな建物が完成した。この建物の構造は柱、梁ともに 250 mm 厚の薄肉のラーメン構造で構成され、構造により内部空間が制約されるのを避けるためであった。

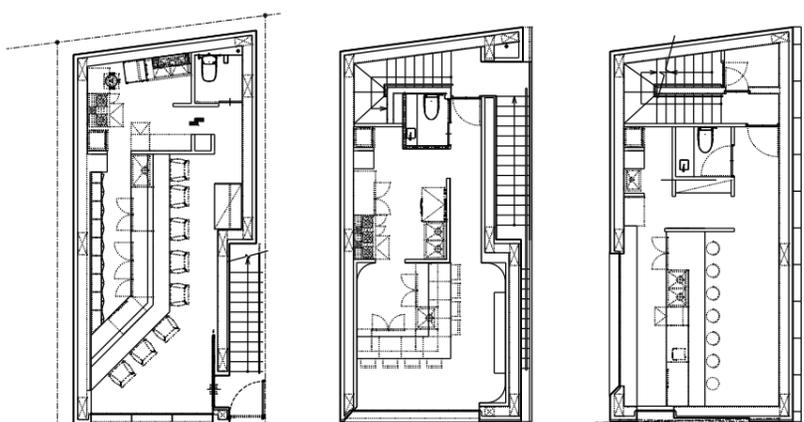
この建物は北海道の食材を活かした食文化発信の場をつくりたいとのクライアントの要望を実現するために計画された。

1 階の開口いっぱいにはけられた白い大暖簾は微かに内部空間を通りに映し出し行灯のような光と情緒を醸し出している。そこは「六法」という鮨屋であり内部に入るとバックカウンターから高い天井にむかう数百本の割竹が大波の如く来訪者を包み込む、白いテラゾーは北海道産のツブ貝や北寄貝、帆立貝をまぶし海辺を表現した。このおおらかなしつらいが狭小空間を忘れさせ、心地よい食空間を生み出している。

2 階には和中華「SAIKONTAN」がある、1 階の空間は縦に伸び割竹に包まれたが、この空間は紅殻色の細い通路をくぐり抜けると筒状に幾重にもなる曲面壁が来訪者を包み込む、土塗は無数に割れ光を和らげ、土の空間に包まれながら大地から生まれた食材を中心とした食の時間を大切にしたい。

1 階、2 階ともにわずか 8 席の空間であるが、日本の持つ素材によりつくられており、狭小空間ながらそれぞれの世界観をつくることを心がけた。

その作法は茶室をつくる時に通じるものを感じる。



六法
1 階平面図

SAIKONTAN
2 階平面図

bar shelter
3 階平面図





1階六法 - 道路から



2階 SAIKONTAN - 客席



3階 bar shelter - 客席



1階六法 - 客席